

1. 科目名 (単位数)	発達障害特殊研究 (2単位)	3. 科目番号	PSMP7227
2. 授業担当教員	鶴 光代		
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7. 講義概要	<p>発達障害について、各障害の特性や配慮事項を理解し、臨床現場で行われている実践から、発達障害児・者への支援について知見を深める。</p> <p>本講義では、発達障害という問題を持つ人が社会でよりよく生きていくための様々な支援法について研究する。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 発達障害に区分される各障害の特徴について理解する。</p> <p>2. 発達障害児・者の支援に必要とされる専門的知識について学ぶ。</p> <p>3. 発達障害に関する研究法を習得する。</p> <p>4. 現場での支援法を使えるようになる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	支援方法の研究論文を読み、レポートにまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	<p><b>【教科書】</b> 主として、学術雑誌等を用いる。 日本臨床動作学会機関誌「臨床動作学研究」 日本リハビリテーション心理学学会機関誌「リハビリテーション心理学研究」 日本特殊教育学会機関誌「特殊教育学研究」 日本心理臨床学会機関誌「心理臨床学研究」</p> <p><b>【参考書】</b> 日本児童青年精神医学会機関誌「児童青年精神医学とその近接領域」</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 レポートにおいて、発達障害における各障害の特徴と発達障害児・者の支援について説明した。発達障害に関する研究法について発表し、実際に行う場合の留意点について議論し、研究法への理解を深めた。 発達障害という問題を持つ人へ実際に支援法を用いる場合の留意点について、意見を待ち目討議した。</p> <p>○評定の方法 研究発表・討議内容 50%、レポート 50%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	発達障害の問題は、基礎的研究から支援法まで幅広いが、知識を学ぶだけでなく、博士論文執筆に繋がる講義として取り組んでいきたい。各内容について、予習復習とともに、積極的な討議への参加を期待する。		
13. オフィスアワー	別途、通知する。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	発達障害の概念、分類		
	<p><b>【学習の目標】</b> 様々な発達障害の概念、分類、診断基準について理解する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 各発達障害の特徴について、DSM-5を参考にして学ぶ。</p> <p><b>【キーワード】</b> 自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害、発達協調運動障害</p> <p><b>【学習の課題】</b> 各発達障害の特徴をまとめる。</p> <p><b>【参考文献】</b> DSM-5</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> DSM-5の簡易版を購入して学習しておく。</p>		
2. テーマ	発達支援の基本的視点		
	<p><b>【学習の目標】</b> 発達支援の基本的な考えを学ぶ。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 発達支援に必要な発達心理学の概念や理論について学び、発達の視点について認識を深める。</p> <p><b>【キーワード】</b> 包括的視点、発達の視点</p> <p><b>【学習の課題】</b> 発達心理学の重要な理論についてまとめてから講義に臨む。</p> <p><b>【参考文献】</b> その都度提示する。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 発達心理学とのつながりを意識して講義に臨む。</p>		
3~4. テーマ	発達支援における包括的アセスメント		
	<p><b>【学習の目標】</b> 発達支援におけるアセスメントのあり方について学ぶ。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 実際のケースに基づいて、発達の視点に立ったアセスメントについて学習する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 包括的アセスメント、環境のアセスメント</p> <p><b>【学習の課題】</b> 知能検査、発達検査など、子どもに対する検査について復習する。</p> <p><b>【参考文献】</b> その都度提示する。</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 子どもに対する心理検査について、理解した上で講義に臨む。</p>		
5. テーマ	自閉症スペクトラム障害におけるエビデンスに基づいた支援方法		
	<p><b>【学習の目標】</b> 自閉症スペクトラム障害における発達支援の概要をつかむ。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 自閉症スペクトラム障害に関する発達支援の精査論文を購読して、自閉症スペクトラム障害に対する支援方法を学</p>		

	<p>ぶ。</p> <p>【キーワード】 自閉症スペクトラム障害、エビデンスベースド</p> <p>【学習の課題】 自閉症スペクトラム障害について理解する。</p> <p>【参考文献】 その都度提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自閉症スペクトラム障害の基本的な理論について復習し、講義に臨む。</p>
6. テーマ	<p>発達論に立つ発達障害への支援</p> <p>【学習の目標】 発達心理学の理論に立つ発達障害への支援方法を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 発達心理学の知見に基づく自閉症スペクトラム障害に対する支援方法の実際と、最近の研究成果を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 太田理論、間主観性</p> <p>【学習の課題】 各技法の特徴と適用についてまとめる。</p> <p>【参考文献】 その都度提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 子どもの発達について復習する。特に、言語発達や社会的発達について復習する。</p>
7～8. テーマ	<p>行動論に立つ発達障害の支援</p> <p>【学習の目標】 応用行動分析等、行動論に立つ発達障害の支援方法について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 応用行動分析やそれから発展した技法について、文献をもとに学習する。</p> <p>【キーワード】 応用行動分析、機会利用型指導法、ソーシャルスキル・トレーニング</p> <p>【学習の課題】 各技法の特徴と適用についてまとめる。</p> <p>【参考文献】 その都度提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 学習心理学について復習する。</p>
9. テーマ	<p>関係論に立つ発達障害の支援</p> <p>【学習の目標】 精神力動論やアタッチメント理論にたつ自閉症スペクトラム障害への支援を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 精神力動論における自閉症スペクトラム障害のとらえ方やそれに基づく支援方法、また、アタッチメント理論に基づく支援方法を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 カプセル化、自我機能、アタッチメント</p> <p>【学習の課題】 各技法の特徴と適用についてまとめる。</p> <p>【参考文献】 その都度提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 精神分析の基本的な考え方を復習する。</p>
10～11. テーマ	<p>臨床動作法による発達障害の支援</p> <p>【学習の目標】 臨床動作法理論に立つ発達障害への支援を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 臨床動作法における障害のとらえ方やそれに基づく支援方法を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 動作に見る発達障害、動作体験様式、体験様式の発達・変化</p> <p>【学習の課題】 技法の特徴と適用についてまとめる。</p> <p>【参考文献】 その都度提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 臨床動作法の基本的な考え方を調べる。</p>
12～13. テーマ	<p>青年期・成人期の発達障害の問題</p> <p>【学習の目標】 青年期・成人期の発達障害について、小児とは異なる特性や問題点を明らかにする。</p> <p>【学習の内容】 この分野は最近注目されているため、各大学の学生相談室等での取り組みや成人の当事者の手記を通して、青年期・成人期での困難について文献を通して、明らかにする。</p> <p>【キーワード】 当事者研究、生涯にわたる支援</p> <p>【学習の課題】 青年期・成人期の発達障害者の困難点についてまとめる。</p> <p>【参考文献】 その都度提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 当事者の手記を読んでみる。</p>
14～15. テーマ	<p>発達障害児・者の親支援・コミュニティ支援</p> <p>【学習の目標】 環境からの取り組みとして、発達障害をめぐる親支援やコミュニティ支援の問題を考える。</p> <p>【学習の内容】 親支援として注目されているペアレント・トレーニングを学ぶ。環境調節として、コミュニティからの支援として何ができるのかを討議する。</p> <p>【キーワード】 ペアレント・トレーニング、アドボカシー、エンパワーメント</p> <p>【学習の課題】 親支援・コミュニティ支援としてできることをまとめる。</p> <p>【参考文献】 その都度提示する。</p> <p>【学習する上での留意点】 各自の経験を議論において出しあい、社会の中で障害児・者を支援することを考える。</p>